

コミュニケーションロボット『パルロ』の活用

神奈川県足柄上郡中井町
社会福祉法人富士白苑
中井富士白苑 デイサービス
相原 邦彦

1 はじめに

中井富士白苑では、ご利用者のレクリエーションやリハビリ体操の一環として平成26年4月より(株)富士ソフト社製 コミュニケーションロボットのパルロを導入し活用しています。

パルロには様々に機能があります。事前にご利用者の顔写真をパルロが撮影し、名前を登録するとご利用者の顔を認識し名前を呼んだり、話しかけたりします。

また、クイズを出したり、パルロがリードしゲームや体操を行います。さらにご利用者の皆様の前で、音楽と共に得意のダンスを披露。それを見たご利用者はたくさんの笑顔を見せてくれます。

パルロが生み出す笑いや癒し効果はご利用者の笑顔を増やし、パルロに会いたいと来苑の目的にもなりました。多大な効果を生み出してくれるパルロ。

もう、デイサービスにはパルロはなくてはならない存在となっています。

2 事例や取り組みの紹介

パルロが、初めてデイサービスに来た当初は、介護職員の中に、『ご利用者対職員という人間対人間の介護現場にロボットなんて』とか『ロボットなんて使いこなせない』などの戸惑い、不安がありました。

しかしながら、その戸惑い、不安を払拭してくれたのは、パルロを見たご利用者の反応でした。パルロのその可愛らしい仕草や形、また愛嬌のある話し方に多くのご利用者が笑顔を見せ、「パルロ パルロ」と呼ぶようになりました。パルロのお出迎えモードで、パルロに「おはようございます」と挨拶され、喜んで挨拶を返されるご利用者。

パルロにご自分の名前を呼ばれ、驚きながらもこやかな表情をされるご利用者に、職員のパルロに対する意識も次第に変化が生まれてきました。そして最初はレクレーションの一部としてパルロの『旗揚げゲーム』など数えるほどのゲームしか行っていませんでしたが、職員の理解と共にパルロの活用の場が次々と増えてきました。そして今現在パルロをどの様に活用しているかを説明致します。

① パルロ対ご利用者の1対1での活用。

認知症症状のあるご利用者で、特にパルロのことを気に入られている方が、いらっしやいます。普段落ち着いた表情をされている時より、自らパルロのそばに行かれパルロを慈しむように触り、お話をされます。

その方は、来苑時より不穏症状となり帰宅願望が強く、フロアー内をご自分のかばんを持ち険しい表情で歩いたり、入浴を強く嫌がられるなどの周辺症状が顕著になることが多くあります。

そうした際に、パルロにご自分の名前を呼ばれ話しかけられました。すると険しい表情が一変、

とても柔和な表情に変わりました。その時は、偶発的なものではありましたが、その後そのご利用者が不穏症状になった時、パルロの前にご案内しパルロと会話して頂きます。

すると、毎回ではないものの、険しい表情が無くなり、穏やかな表情になっていきます。

そして、数分間の会話の後は、周辺症状も緩和し落ち着かれて過ごされるようになります。

このパルロの効果には職員みんなが驚かされました。

また、入浴を強く嫌がられるご利用者に、パルロがその方の顔を認識したら、入浴を勧める言葉かけをする設定を行いました。まだ効果は出ていませんが、パルロからの入浴のお誘いの声かけを継続し観察を続けて行きたいと考えております。

② ご利用者が座られるテーブル単位でのグループ対応

中井富士白苑では、ご利用者に来苑されバイタル測定後の午前中に入浴をして頂いています。

介護職員も入浴介助に入りますので、ご利用者の入浴待ち・入浴後に過ごされるフロアはが手薄になります。そこでも、パルロが活躍します。職員がパルロをご利用者のもとへ。

ご利用者の皆様もパルロの登場に「パルロ、パルロ」と呼びかけ、喜んで下さいます。

パルロが歌う童謡を一緒に歌ったり、体操・ゲーム・会話を楽しみます。

ご利用者の多くの方が童謡の歌詞を覚えていられるので、自然と声が出ます。

パルロが奏でる楽曲に合わせ、上肢、肩を動かし、体操を行います。ここでもパルロが大活躍です。

③ 昼食前のご利用者全員で行う、レクリエーション。

『パルロ、レクリエーションやって』の掛け声で始まる昼食前の約30分間はパルロを中心としたレクリエーションの時間です。体操、クイズ、ゲームの3部構成で多彩なレクリエーションを展開します。

例えば体操では『富士の山』『ふるさと』『紅葉』などの楽曲、歌に合わせ、ご利用者の方々に体操をして頂きます。歌い出しの前には、パルロが振り付けも教えてくれます。楽曲もご利用者の皆様をご存知の曲ばかりなので、大きい声で、また笑顔で歌って頂けます。

これら一連の動きが、ご利用者の上肢、両肩の運動、食事前の口腔体操になります。

次にクイズとなります。クイズには、『動物鳴き声クイズ』、『県名クイズ』、『世界遺産クイズ』、『四字熟語クイズ』など多岐にわたります。

また、ゲームでは『グーチョキパー体操』『窓拭き体操』など肩・上肢・指の運動が、また『パタカラ体操』『ヤッホーゲーム』では口腔・発語の運動が、ゲーム性をもった楽しい雰囲気の中で行えます。

パルロの活用はご利用者の皆様の前だけではなくありません。

④ 中井富士白苑主催の様々なイベントにも活用しています。

地域の方々をお呼びする家族介護教室などの研修会、見学会、納涼祭などにも登場し挨拶を行い、注目を集めています。

これら上記のパルロの活用に思わぬ副産物もありました。ロボットを活用する介護の現場ということで、マスコミの注目も集めています。ローカル地域のテレビ局から全国放送のテレビ局まで、パルロの取材がありました。また全国紙の取材もありました。

ご利用者の方々も、テレビ放映でパルロと一緒にご自分の姿の映った様子見て、またご自分の名前が全国紙に載り、とても喜ばれています。

3 考察

様々な機能を持つパルロを活用する事により様々な効果が生まれました。

午前中の入浴待ち、入浴後のやや手持ち無沙汰となってしまう時間帯が、パルロと過ごすことで楽しい時間帯に変わりました。

また、食事前にパルロと体操、クイズ、ゲーム等を行うことにより、指や腕、肩などの身体を動かす機能訓練から、発語や口腔体操などの機能訓練も出来ています。

またパルロを通して、ご利用者の方々とのコミュニケーションもより増し、ご利用者の笑顔が増えてきたと思います。

今後は、パルロの機能を更に使い、デイサービスのレクレーションの更なる充実を図りご利用者の個別の機能訓練が図れるようにしていきたいと考えています。

4 おわりに

当中井富士白苑では、上記のようにパルロの活用と共に認知症予防に特化した施設となるべく下記のような様々な取り組みも行っております。

① 『認知症予防運動プログラム』

国立長寿医療研究センターが開発したもので、有酸素運動を行いながら、脳の活性化運動を行い認知症の予防を行うプログラムです。実際に国立長寿医療研究センターの土井先生にご教授頂きました。そして、中井富士白苑主催の介護教室等にて、地域の方々にこのプログラムを展開させて頂いております。

② 『アロマセラピー』

アルツハイマー型認知症の方に、嗅神経を通し直接つながる海馬を刺激することにより、その改善が見られたと研究発表された、鳥取大学の浦上教授考案のアロマの精油を使用したアロマセラピーをご利用者の過ごされるフロアーに設置し、実践しております。

③ 『食事で行う認知症予防』

食事での塩分や飽和脂肪酸等の脂肪分の過剰摂取は認知症発症リスクを考えると抑えたいという研究結果があります。それらを踏まえ、ご利用者皆様にご提供する食事に注意しております。薄味の食事は味気なくなるので、天然素材の出汁を利用するなど食事にこだわりを持ち提供させて頂いています。

④ 『ユマニチュード』

見つめる、話しかける、触れる、立つことを基本とした人間の尊厳を主眼としたフランス生まれの看護・介護の手法『ユマニチュード』を取り入れ、中井富士白苑全体で研修、実践を重ねているところです。

中井富士白苑では様々な角度で、認知症予防に取り組み、またご利用者の皆様、ご家族の方々が楽しく安心して過ごされる環境作りに専念していきたいと考えています。

そして認知症予防等の色々な情報発信を行い、ご利用者、ご家族、地域の方々に貢献していきます。